

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12564

研究課題名(和文) 養護教諭の臨床判断能力育成のためのフィジカルアセスメント教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a physical assessment training program to enhance Yogo teachers' clinical judgment skills

研究代表者

葛西 敦子 (Atsuko, Kasai)

弘前大学・教育学部・教授

研究者番号：80185735

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：養護教諭には、子どもの傷病に対して、「子どものからだをみる」フィジカルアセスメントを実践し、それに基づき的確な臨床判断を行い、救急処置を実践する能力が求められる。「養護教諭の臨床判断」を明らかにするために、その測定用具を提案した。養護教諭への質問紙調査の結果、臨床判断の項目は31項目、4因子が抽出され、その信頼性・妥当性が検証された。さらに、養護教諭が臨床判断に取り組むときの関連要因を明らかにした。また、「食物アレルギーの子どもがアナフィラキシーショックを発症した事例」のフィジカルアセスメント教育プログラムを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「養護教諭の臨床判断」の測定用具を開発し、その信頼性・妥当性を検証し、養護教諭が臨床判断に取り組むときの関連要因を明らかにした。今までに、養護教諭の臨床判断に焦点を当てた研究のないことから、学術的に先駆的な研究結果である。また、「食物アレルギーの子どもがアナフィラキシーショックを発症した事例」のフィジカルアセスメント教育プログラムを開発した。本プログラムは養護教諭養成教育や現職養護教諭教育で実践することで、フィジカルアセスメントによる臨床判断に基づき救急処置ができるプログラムである。養護教諭としての専門性の向上につながり、子どもの健康を守るための養護実践力育成となる。

研究成果の概要(英文)：Yogo teachers are required to have the ability to perform a physical assessment of any student suffering injury or illness, make an accurate clinical judgment, and provide first aid. In this study we propose a measurement tool to determine Yogo teachers' clinical judgment ability. Based on a questionnaire survey targeting Yogo teachers, we extracted and verified the reliability and validity of 31 items and four factors related to clinical judgment. Factors associated with clinical judgment on the part of Yogo teachers were also clarified. Using this data, we developed an educational program to improve physical assessment skills, using a case study of a student struck with anaphylactic shock caused by a food allergy.

研究分野：学校看護学

キーワード：フィジカルアセスメント 養護教諭 学校看護学 臨床判断 養護教諭養成教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1) 養護教諭に求められている資質・能力と今日的課題

養護教諭の役割として、救急処置・健康診断・疾病予防などの保健管理があり、救急処置は「子どもの命を守る」上で最も重要となる。医学の向上・特別支援教育の推進により、学校現場には様々な慢性疾患をかかえる子どもが学んでいる。そのため養護教諭には、アレルギー疾患によるアナフィラキシーショックや糖尿病の低血糖症状などへの緊急時の対応を迫られることも少なくない。また、水泳の飛び込みによる頸髄損傷、組み体操や柔道による事故、熱中症による死亡事故などが後を絶たず、学校における体育活動中の事故防止等の文書(平成28年7月28日)による注意喚起がなされている。このような状況下で養護教諭は、的確なフィジカルアセスメントにより、子どもの身体状況を臨床判断し、救急処置することで「子どもの命」を守らなければならない。養護教諭の専門性として、「子どものからだをみる」フィジカルアセスメント能力の知識・技術の修得の必要性について学会で議論され始めたのは、平成20年開催の日本養護教諭教育学会学術集会である。平成20年中央教育審議会答申、平成21年学校保健安全法の施行、平成21年教員免許更新制の導入においても、最新の知識・技術の習得が明記されている。今日的課題として養護教諭の資質・能力の向上のために、フィジカルアセスメントの知識・技術の修得が必須である。

2) 養護教諭養成教育におけるフィジカルアセスメント教育の課題

養護教諭養成大学は126校(日本養護教諭養成大学協議会の加盟校:平成28年8月現在)あり、教育系、看護系、学際系(福祉系、栄養系、保健体育系、家政系など)など多種多様な養成が行われている。看護系大学では、看護師養成教育の必須科目としてフィジカルアセスメント教育が行われている。それに対して、教育系・学際系大学の養護教諭養成教育で行われているフィジカルアセスメント教育は、教育内容・時間などさまざまである。教育者の立場として、養護教諭養成教育における「養護教諭のためのフィジカルアセスメント教育」の開発が望まれる。また学生はフィジカルアセスメント教育を受講したものの、身体不調を訴える子どものフィジカルアセスメントには自信がなく、臨床判断が曖昧な状況が見受けられる。学生が、自信をもって臨床判断を導き出すことができるようなフィジカルアセスメント教育が必須である。養護教諭養成教育において、臨床判断能力育成の基盤となるフィジカルアセスメント教育システムの開発が喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、養護教諭養成教育における臨床判断能力育成のためのフィジカルアセスメント教育プログラムを開発することである。まず、養護教諭の臨床判断能力育成に焦点を当てることから、「養護教諭の臨床判断」を明らかにするために、その測定用具を提案する。養護教諭への質問紙調査を実施し、「養護教諭の臨床判断」測定用具のその信頼性・妥当性を検証する。さらに、養護教諭が臨床判断に取り組むときの関連要因を明らかにする。さらに「食物アレルギーの子どもがアナフィラキシーショックを発症した事例」のフィジカルアセスメント教育プログラムを開発する。

3. 研究の方法

1) 養護教諭の臨床判断に関する測定用具

(1) 養護教諭の臨床判断に関する測定用具の提案

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できるデータベース・サービス(CiNii Articles - 日本の論文をさがす)にて、養護教諭の臨床判断に関する研究報告を検索した(2018年8月16日現在)。キーワードとして、「養護教諭 and 判断」で検索したところ81件が抽出された。そのうち養護教諭の判断について記述のある論文14件を分析した。なお、「養護教諭 and 臨床判断」で検索し抽出された論文は、そのうちの3件であった。これらの14文献を養護教諭の判断に関する影響要因に関わる内容を抽出した。臨床判断モデルからは、そのプロセスである「気づき」「解釈」「反応」「省察」の4つのフェーズを掲げた。臨床判断モデルと14文献から抽出した「養護教諭の判断に及ぼす影響要因」に基づき表を作成した。さらに、「養護教諭の判断に及ぼす影響要因」一つ一つを文章表記し、研究者3名で議論を重ね項目を作成した。

(2) 養護教諭の臨床判断に関する測定用具の信頼性・妥当性の検証

調査対象は、2019年7~9月に、教員免許更新講習や養護教諭研修会に参加している養護教諭338名であった。質問紙調査を実施し、310名から回答があった(回収率91.7%)。そのうち、データに欠損値(23名)のあるものを除外し、287名を分析対象とした。

調査内容は、1)属性は、性別、年齢、立場(養護教諭・養護教諭兼保健主事・その他)、養成背景(教育系・看護系・学際系・その他)、現在の勤務校種(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・その他)、養護教諭としての経験年数、勤務校の生徒数であった。

2)養護教諭の臨床判断に関する質問項目は、筆者らの作成したクリスティーン・タナーの臨床判断モデルに基づいた【気づき】30項目、【解釈】3項目、【反応】6項目、【省察】10項目の計49項目について、6件法により回答を求め、「かなり当てはまる」を6点、「当てはまる」を5点、

「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「当てはまらない」を2点、「かなり当てはまらない」を1点に得点化した。

分析方法は、統計ソフト IBM SPSS Statistics Version 22.0 を用い、統計学的分析を実施した。

倫理的配慮として、調査目的、方法、プライバシー保護、匿名性の保証、データ使用範囲等について調査開始前に口頭で説明を行った。調査用紙の回収をもって同意を得たこととした。なお、本研究は弘前大学教育学部研究倫理委員会の承認を得て実施した（令和元年度受付番号 0006）。

2) 養護教諭の臨床判断への関連要因

養護教諭の臨床判断に関する測定用具の信頼性・妥当性の検証の調査対象 287 名のうち、属性に欠損値があるものを除外（56 名）し、臨床判断総得点（31 項目）、第 1 因子（12 項目）、第 2 因子（6 項目）、第 3 因子（6 項目）、第 4 因子（7 項目）の各得点を目的変数として重回帰分析を行った。説明変数には年齢、養成背景（看護系か否か）、経験年数、コミュニケーションスキル 6 項目 自己統制 表現力 読解力 自己主張 他者受容 関係調整 の計 9 項目を設定した。統計的分析には、統計ソフト Bellcurve エクセル統計 2.20 を用いた。

3) 「食物アレルギーの子どもがアナフィラキシーショックを発症した事例」のフィジカルアセスメント教育プログラム

食物アレルギー（アレルゲン：カニ・エビ）の子どもが昼の給食後にアナフィラキシーショックを起こした事例を展開したフィジカルアセスメント教育プログラムを作成した。アレルギー症状を【事例 A】アレルギー症状はさほど重くない【事例 B】呼吸器症状もでてきた【事例 C】緊急性の高いアレルギー症状を設定した。救急処置として、エピペンの筋肉注射を打ち、救急車を要請する。90 分授業を 2 コマ続けての實習のプログラムを作成した。

4. 研究成果

1) 養護教諭の臨床判断に関する測定用具

(1) 養護教諭の臨床判断に関する測定用具の提案

「養護教諭の臨床判断に関する項目」は、【気づき】30 項目、【解釈】3 項目、【反応】6 項目、【省察】10 項目の計 49 項目となった。

(2) 養護教諭の臨床判断に関する測定用具の信頼性・妥当性の検証

平均年齢は 39.3 ± 10.84 歳、養護教諭の経験年数は 15.2 ± 10.79 年であった。

因子分析

1 回目の因子分析：主因子法を行い、因子のスクリープロットを見た結果、4 因子構造と仮定した。

2 回目の因子分析：因子抽出には主因子法を、回転にはプロマックスを用いた。因子負荷量 .400 以下のもの 13 項目を除外し、36 項目とした。

3 回目の因子分析：36 項目をさらに因子分析し、5 項目を除外し、31 項目となった。

4 回目の因子分析：第 1 因子を『対応を判断する基準の内容や項目（解釈を含めた気づき）』、第 2 因子を『対応と結果に基づいた省察』、第 3 因子を『フィジカルアセスメントによる健康状態の判断』、第 4 因子を『対応を決めるときの尊重・考慮すべき事項（反応）』と命名した（表）。

信頼性と妥当性

尺度全体（31 項目）の Cronbach の係数は .901 であった。第 1 因子が .902、第 2 因子が .889、第 3 因子が .799、第 4 因子が .775 であった。係数が .80 に近いことから、尺度の内的整合性は高いと判断した。尺度の内容妥当性は、尺度開発の経験のある看護学の専門家 4 名で評価し、適切な内容妥当性を確認した。

2) 養護教諭の臨床判断への関連要因

分析対象者の属性

養護教諭の平均年齢は 38.6 (SD 10.84) 歳、経験年数は平均 14.6 (SD 10.46) 年であり、養成背景は看護系 39 名 (16.9%)、教育系・学際系 192 名 (83.1%) であった。

臨床判断得点に関連する要因について

臨床判断総得点（全因子）について、年齢、養成背景、経験年数、コミュニケーションスキル 6 項目 自己統制 表現力 読解力 自己主張 他者受容 関係調整 の計 9 項目で重回帰分析を行った。その結果、修正決定係数は .180 であり、回帰式は 0.1% 水準で有意であった。偏回帰係数が 5% 水準で有意であったものの標準偏回帰係数は、他者受容 (.295)、養成背景 (.161) であった。

因子別に見た結果では、第 1 因子『対応を判断する基準の内容と項目』が同様の結果であったが、第 2 因子『対応と結果に基づいた省察』と第 4 因子『対応を決めるときの尊重・考慮すべき事項』は 他者受容 のみが有意となり、第 3 因子『フィジカルアセスメントによる健康状態の判断』では、養成背景 (.210)、関係調整 (.153) が有意となった。

3) 「食物アレルギーの子どもがアナフィラキシーショックを発症した事例」のフィジカルアセ

スメント教育プログラム

(1) 到達目標

食物アレルギーの子どもが、アナフィラキシーを起こしたときの救急処置ができる。
アナフィラキシー時のフィジカルアセスメント（バイタルサインを含む）ができる。
発症から救急処置までの経過を記録できる。

(2) 実習の事前準備

受講生に合わせ、教室内のグループ配置等を決める。

佐藤花子（仮名）の健康情報の資料作成（すべてファイルに閉じる）

- 学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）
- 保健調査票[㊟]（実際に小学校で使用）の作成
- 食物アレルギーに関する調査
- 面談票（教職員記入用）
- 取組みプラン

献立表（保健室内に張っておく。ファイルに閉じる。エビ・カニ含むメニュー）

フリーフィンギングシート等の作成

- フリーフィンギングシート
- 事例検討シート 作戦会議用シート
- 経過記録シート（「記録の書き方」含む）
- アレルギー症状発生時の対応

救急処置必要物品

- エピペン：保健室の棚に保管する・・・毎朝、佐藤花子（仮名）が保健室に来室し、薬品戸棚においていく。帰りに持ち帰る。
- 血圧計、パルスオキシメーター、聴診器、AED

(3) 事例の概要（佐藤花子（仮名）の情報）

年齢（学年）：8歳，2011年5月5日生まれ

身長 122 cm，体重 24 kg（2019年4月測定）

バイタルサイン：平時 36.5℃，脈 86 回/分（整脈），呼吸 23 回/分（喘鳴無），血圧 108/62 mmHg，SpO₂98%，チアノーゼ無。

排泄：排尿 8 回/1 日（夜尿症無），排便 1 回/1 日

食物アレルギー（アレルゲン：エビ・カニ）の診断を受け，エピペンを処方されている。

アナフィラキシーを起こした経験あり。エピペンは毎朝，児童が保健室に持参し在校中は保管している。また，下校時に児童が保健室に行き持ち帰っている。

家族：父（40歳），母（36歳），妹（4歳）の4人暮らし

現在の治療

かかりつけ医にて，抗原特異的 IgE 抗体検査，皮膚テスト実施，さらに総合病院に入院して食物除去・負荷試験も実施し，甲殻類アレルギーの診断を受けている。

学校では給食は除去食対応とし，該当食品を食べないように，担任と2学年の教員には特に注意を促している。さらに，他学年の教員とも情報共有は行っている。

アナフィラキシーショック時：エピペン注射液 0.3mg（筋肉注射）

当日の給食（ファイルに給食献立表を閉じる）：シーフードカレー，豚しゃぶサラダ，オレンジ，牛乳。除去食は，シーフードカレーのかわりにチキンカレー

学校における情報管理

児童の健康上の情報記録は，アレルギーに関する事も含めてすべてファイリングし，児童が在校中は教室に，下校後は職員室で保管している。

(4) 教育プログラムの展開（90分×2コマ）

オリエンテーション（10分）

講習の流れと到達目標を説明する。配付資料（フリーフィンギングシート，事例検討シート 作戦会議用シート，経過記録シート（「記録の書き方」含む），アレルギー症状発生時の対応）の確認をする。事例の展開・演習をするグループ分けをする。

講義（30分）

- 食物アレルギーとアレルギー症状発生時の対応

食物アレルギーの基礎知識，アレルギー症状発生時の対応，エピペンについて

- 「子どものからだ」をみる - バイタルサインの観察 -

バイタルサインとは，体温，脈拍，呼吸，血圧，意識について

- 救急処置における記録

その児童生徒に関して対応したことを記入する。養護教諭が対応時に書いたメモや関係した教職員への聞き取り等を参考にする。その日のうちに学校管理下で起きたことや行った対応を書く。子どもの経過記録として，何が行われていたか，児童生徒の様子はどうか等々の事実を書く。経過記録は，記録として，残しておいた方がよい事例は必ず書いておくこと

機器の取り扱いの確認（10分）

エピペン，血圧計，パルスオキシメーター，聴診器，AED

グループでの事例検討（作戦会議）（20分）

事例検討シートに沿いながら，検討する。

実習3事例(表)(40分)

事例の設定

現在 12:40 です。保健室には他の児童や教員はいません。2年生女子の佐藤花子(仮名)さんが「具合が悪い」と訴えて一人で保健室へ来ました。対応時間は10分です。児童の保健室来室から10分間対応してください。

a. 食物アレルギーの子どもがアナフィラキシーを発症した際の救急処置を実践する。グループ交互に観察する。

b. 役割分担を決める：養護教諭，管理職，担任，保護者，救急隊員

c. 持ち時間は10分：救急隊員が到着し，申し送ったら終了する

演習(30分)

a. 各自が救急処置記録をまとめる

b. 班内での事例の検討：目標， に沿って行う。救急処置記録をまとめる。バイタルサイン観察のポイントをまとめる。その他に必要なフィジカルアセスメント項目を書き出す。

各班の発表(10分)

まとめ(10分)

表 食物アレルギーの症状

<p>【事例A】アレルギー症状は，さほど重くない</p> <p>全身の症状 何となく具合が悪い</p> <p>呼吸器の症状 なし</p> <p>消化器の症状 なし</p> <p>皮膚の症状 かゆみ，じんま疹，赤くなる(紅斑)</p> <p>顔面・目・口・鼻の症状 顔面の腫れ，目のかゆみや充血，まぶたの腫れ，くしゃみ，鼻水，鼻づまり，口の中の違和感，唇の腫れ</p> <p>〔救急処置〕バイタルサイン，フィジカルアセスメントの実施による経過観察</p>
<p>【事例B】呼吸器症状もでてきた</p> <p>全身の症状 具合が悪い</p> <p>呼吸器の症状 声がかすれる，犬が吠えるような咳，のどや胸が締め付けられる，咳，息がしにくい，ゼーゼー，ヒューヒュー</p> <p>消化器の症状 なし</p> <p>皮膚の症状 かゆみ，じんま疹，赤くなる(紅斑)</p> <p>顔面・目・口・鼻の症状 顔面の腫れ，目のかゆみや充血，まぶたの腫れ，くしゃみ，鼻水，鼻づまり，口の中の違和感，唇の腫れ</p> <p>〔救急処置〕エピペン注射，救急車要請。救急車到着まで，バイタルサイン，フィジカルアセスメントの経過観察</p>
<p>【事例C】緊急性の高いアレルギー症状</p> <p>全身の症状 ぐったり，意識もうろう，脈が触れにくいまたは不規則唇や爪が青白い</p> <p>呼吸器の症状 のどや胸が締め付けられる，声がかすれる，犬が吠えるような咳，息がしにくい，持続する強い咳き込み，ゼーゼーする呼吸(ぜん息発作と区別できない場合を含む)</p> <p>その後，呼吸がない</p> <p>消化器の症状 持続する強い(がまんできない)，お腹の痛み</p> <p>皮膚の症状 かゆみ，じんま疹，赤くなる</p> <p>顔面・目・口・鼻の症状 顔面の腫れ，目のかゆみや充血，まぶたの腫れ，くしゃみ，鼻水，鼻づまり，口の中の違和感，唇の腫れ</p> <p>〔救急処置〕来室時 脈 P=120/分(微弱，橈骨動脈)，呼吸 R=30/分，血圧 BP=90/60mmHg 経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)92%，チアノーゼ軽度有・・・エピペン注射</p> <p>意識消失，呼吸停止・・・AED</p> <p>救急車</p>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 佐藤伸子・福田博美・葛西敦子・山田玲子・秋月百合	4. 巻 第68号
2. 論文標題 学生の臨床判断能力育成に向けた体温・脈拍の継続観察の意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 189-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子・福田博美・藤井紀子	4. 巻 第43巻1号
2. 論文標題 養護教諭学生の食物アレルギーのアナフィラキシー対応におけるエビベン投与に関する臨床判断の傾向 - 動画分析と自由記述からの考察 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海学校保健研究	6. 最初と最後の頁 161-171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 葛西敦子, 福田博美, 山田玲子, 佐藤伸子, 秋月百合, 小川真由子	4. 巻 121
2. 論文標題 養護教諭の臨床判断に関する測定用具の開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 157-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子, 福田博美, 藤井紀子, 林さえ子, 永石喜代子, 植田ひろみ, 水野昌子, 三尾弘子	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 養護教諭養成課程の学生における高機能患者シミュレータを用いた脈拍観察の学習効果 - 自信の評価からの考察 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東海学校保健研究	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林さえ子, 福田博美, 小川真由子, 藤井紀子, 三尾弘子, 水野昌子	4. 巻 68
2. 論文標題 養護教諭養成課程における臨床判断能力を育成するシミュレーション教育プログラムの提案と評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告(教育科学編)	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子, 福田博美, 藤井紀子, 林さえ子, 三尾弘子, 水野昌子	4. 巻 2
2. 論文標題 高機能患者シミュレータを用いた教育プログラムの開発 第2報 - 養護教諭を対象としたアナフィラキシー対応 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学, 社会科学編	6. 最初と最後の頁 183-195
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田博美・藤井紀子・小川真由子・林さえ子・植田ひろみ・三尾弘子・水野昌子・永石美代子・葛西敦子・佐藤伸子・山田玲子	4. 巻 第118号
2. 論文標題 養護教諭のための高機能患者シミュレーターを用いた教育プログラムの開発 - 現職養護教諭における緊急時脈拍観察に関する研修の提案 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 141-148
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 0439-1713	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子・福田博美・水野昌子・藤井紀子・三尾弘子・永石美代子・植田ひろみ・林さえ子	4. 巻 8号
2. 論文標題 養護教諭教育における看護技術修得のためのシミュレーション教育の必要性 - 文献検討による一考察 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生活コミュニケーション学研究所年俵 生活コミュニケーション学	6. 最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 21854491	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤井紀子・福田博美・小川真由子・永石美代子・三尾弘子・植田ひろみ・水野昌子・林さえ子	4. 巻 第67- 輯
2. 論文標題 養護教諭における脈拍のシミュレーション教育プログラムを用いた研修の評価	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告	6. 最初と最後の頁 145-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 1884-5142	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小川真由子・福田博美・佐藤伸子・藤井紀子・三尾弘子・水野昌子・植田ひろみ・林さえ子・永石美代子・葛西敦子・山田玲子	4. 巻 1号
2. 論文標題 養護教諭養成課程における臨床判断能力を向上させるためのシミュレーション教育の検討 - 高機能患者シミュレーターを用いた一次救命処置のプログラムに関して -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会科学編	6. 最初と最後の頁 143-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 24339180	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計10件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 山田玲子・岡田忠雄・葛西敦子・福田博美・佐藤伸子
2. 発表標題 学校救急処置におけるバイタルサイン観察の活用 - 養護教諭の臨床判断能力育成への取組み -
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 葛西敦子・福田博美・山田玲子・佐藤伸子・秋月百合・小川真由子
2. 発表標題 養護教諭の臨床判断に関する測定用具の妥当性・信頼性の検証
3. 学会等名 日本学校保健学会第66回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田玲子・岡田忠雄・葛西敦子・福田博美・佐藤伸子
2. 発表標題 養護教諭養成課程学生の学校救急処置における臨床判断能力の準備状況
3. 学会等名 日本学校保健学会第66回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田玲子・葛西敦子・福田博美・佐藤伸子
2. 発表標題 養護教諭養成課程学生の学校救急処置における臨床判断能力の準備状況（第二報）
3. 学会等名 日本健康相談活動学会第16回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤伸子・葛西敦子・福田博美・山田玲子・秋月百合・小川真由子
2. 発表標題 養護教諭の臨床判断への関連要因
3. 学会等名 日本健康相談活動学会第16回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川真由子・福田博美
2. 発表標題 特別支援学校におけるシミュレーションを導入したエピペン講習に関する一考察
3. 学会等名 日本学校保健学会第66回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川真由子・福田博美・藤井紀子・三尾弘子・水野昌子
2. 発表標題 シミュレーション教育における緊急対応の養護教諭学生と現職養護教諭との相違についてーエピペン投与に関してー
3. 学会等名 東海学校保健学会第62回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川真由子, 福田博美, 藤井紀子, 林さえ子, 三尾弘子, 水野昌子
2. 発表標題 高機能患者シミュレータを用いたシミュレーション教育の臨床判断における課題と検討
3. 学会等名 第61回東海学校保健学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 葛西敦子, 福田博美, 山田玲子, 佐藤伸子, 秋月百合, 小川真由子
2. 発表標題 養護教諭の臨床判断に関する一考察
3. 学会等名 日本学校保健学会第65回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤伸子, 福田博美, 葛西敦子, 山田玲子, 秋月百合
2. 発表標題 学生の臨床判断能力育成に向けた体温, 脈拍の継続観察の意義
3. 学会等名 日本健康相談活動学会第15回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 伸子 (Nobuko Sato) (10226946)	熊本大学・大学院教育学研究科・講師 (17401)	
研究分担者	山田 玲子 (Reiko Yamada) (10322869)	北海道教育大学・教育学部・教授 (10102)	
研究分担者	福田 博美 (Hiromi Fukuda) (90299644)	愛知教育大学・教育学部・教授 (13902)	
研究分担者	秋月 百合 (Yuri Akizuki) (90349035)	熊本大学・大学院教育学研究科・准教授 (17401)	